

医療法人経営者と話し込んだ

ある統計では、日本の赤字病院は約66%で、前年は約58%で、医療の経営は結構辛い感じです。厚労省は、あの手この手の成功事例を紹介して、急性期医療で経営改善を目指す病院が目につきます。

でも治療の開始から完治までの時間を考えると、急性期はほんの瞬間です。私は、急性期医療に特化している病院は一発芸で勝負する芸人に思えてしまい、結構ギャングル性が高い気がします。

もちろん、急性期医療をすれば診療報酬が美味しいのですが、予防や健診、在宅医療や在宅介護といった慢性期や超慢性期医療のほうが圧倒的に患者の数はいるわけなので、これらの運営をしても患者の満足度は得られるし、社会的にも選ばれる組織になると思うのです。

そんでもって、これまで国は診療報酬に手を加えるケチ臭い改正を重ねていて、今は薬剤費コントロールが勝負といわれている包括医療費支払制の病院が増えてしまっているの、専門バカの一発芸人ではとっても不利になっていると言われてています。

なので、個々の患者の満足度を考えての運営のほうが、結構うまく経営できるのかもって、最近、医療法人の経営者達とお話しをする内容が患者のニーズ中心の話題になります

